

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 千共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長崎哲夫
編集主筆 渡邊義彦
印刷所 株式会社きかんし



上：青年キャンプ、自然豊かな場所で環境問題を考える。
下：風力発電所にて。75メートルの風車に上る。

日独教会青年交流大会

ユースミッション2013

8月19～30日に「ユースミッション2013」の日独の教会青年交流が、神様の祝福と守りのうちに実施されました。このために多くの方々の献げ物と祈りが集められましたことに、スタッフはじめ参加ユースは大きな励ましを受けました。この紙面をお借りして心から感謝いたします。

10年以上、全国教会婦人会連合の下で続けてこられたこの交流を、伝道推進室が引き継ぐ形で、「日独教会青年交流」の計画は進められました。その計画の中では初めての者には様々な不安もありましたが、そのような不信仰な者の思いをはるかに越えて、神様はほんとうに素晴らしい時と出会いをお与え下さいました。

「ベルリン・フランケンブルク領邦福音主義教会ウィットシュトゥック・ルビン教区」のお招きを受けて、15～22歳のユース13名と、5名のスタッフ、2名のサポートスタッフ、そして伝道推進室室長の石橋秀雄教団総会議長が参加して下さい、総勢21名のメンバーでドイツに向かいました。ペルリンよりの北西に100キロほど離れたヴィットシュトゥックや近郊の町や村でホームステイをしながら10日間の交流プログラムを経験してまいりました。

ドイツの教会が設定してくださった今回のテーマは「環境問題」でありました。テーマに基づき、バイオ農場、東経8度上にある各国の気候を体験する教育施設、風力発電所など、様々な施設を回りながら、五感によって環境問題を考えることも与えられました。また

顔と顔を合わせ出会うことを経験

今年の夏、日本が経験した異常な天候についての関心も持っておられることも知らされました。福島第一原子力発電所の事故から学び、主の日の礼拝の準備をしました。

神様のお造りになった豊かなドイツの自然の只中で、聖書に聞き、キリストの福音の喜びのうちに生かされているものとして、参加者それぞれがこの問題を共有し分かち合いながら、厳しい現実と、それを憐れみまた慰めを与えてくださる神様の恵み深さを知る時間も与えられました。

このテーマの背後にあることは、この交流プログラムを準備してくださったドイツの教会の方々が、東日本大震災における福島第一原子力発電所の事故に深く想いを寄せていてくださることでした。それと併せて

あるユースが言いました。「言葉が通じてもコミュニケーションが取れるわけではない。それとは反対に、言葉が通じなくてもコミュニケーションが取れることを知った」このような感想を持つユースがいるほどに、それぞれが良い出会いを与えられました。それを支えてくださったのは、文字通りの献身的にホストファミリーとしてユースをほじめユースを引率したスタッフを家庭の中に受け入れてくださったドイツの教会員の方々です。

石橋室長が現地での聖日礼拝において今回の主題聖句であったイザヤ書65章の御言葉から「狼と小羊は草をはみ」と記されている出来事が、ドイツと日本の国籍の違う青年が同じ御言葉をいいたくことによってここで実現していると、説教で語られました。そう、この奇跡を私たちは経験し、つぶさに見ることが許されたのです。

また日本から渡独したユースたちは、今回初めて出会った者ばかりです。あの意味で偶然に集められたものであり、そのために最初は緊張して固かったユースたちでありましたが、旅を続ける中で信仰も親交も深められて、ほんとうに素晴らしいチームとして旅を終えることができました。

誰が最初に言い出したかわかりませんが、別れが迫ってきた後半のプログラムの中で合言葉のように「来年『教会中高校生・青年大会でまた会おう』と参加ユース

共に祈り、支えよう！
Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

2013年10月
教団救援対策本部長 石橋秀雄

目標額 10億円(国内のみ)
期間 2011年7月1日～
2015年3月31日

振替番号 00110-6-639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

《10月1日現在 募金総額》
国内募金総額 6億0450万8186円
海外からの献金総額 2億5555万3946円

スたちが語り合っていたその姿に、神様の祝福の豊かさを知られました。また伝道献身者への志が芽生える時、ユースの目には光るものがありました。そのことを学んでゆく。自分の夢やあこがれを実現し働きを始めるために、皆さんのことを学び、いくつもの関門を越えクリアしていくなくてはならないことを知ってゆく。▼運転士という職業が法によって守られ、また法を遵守することで自分だけでなく、何百、何千という乗客の安全を守ることを覚えてゆく。運転士という名前には単なる肩書きに終始しない。法によって守られ、はじめて働きを全うできるのであり、肩書きだけでは務めは成立しない。▼もし伝道者が肩書きだけに執着しているならば、それでは教会はたちまちに立ち行かなくなるであろう。上席を好む者は末席を与えられるのである。慢心していないか願みなくてはならない。

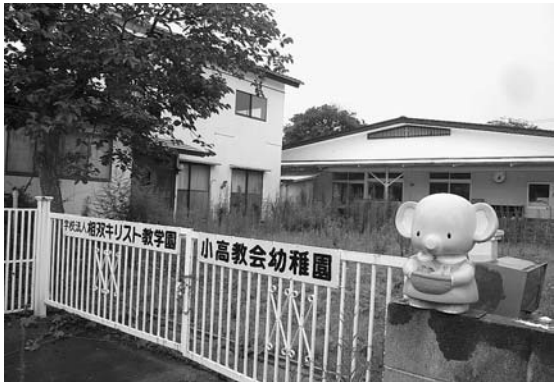


聖日礼拝後集合写真、石橋議長とプッペ・スーパーインテンデントが説教をした。

荒野の声

子供がもし電車の運転士になりたい、と言うとき。そのとき

子供は「運転士」という一般名詞を思い浮かべているのではなく、その名前が表現している働きを思い浮かべることであろう。▼電車の運転席に座っている自分、ハンドルを握っている自分を思い浮かべて、運転席から流れてゆく景色と、前方に限りが無いのかのように続くレールが見られるの生き生きと思ひ浮かべると、働くの法的な手続を必要とすることを学んでゆく。自分の夢やあこがれを実現し働きを始めるために、皆さんのことを学び、いくつもの関門を越えクリアしていくなくてはならないことを知ってゆく。▼運転士という職業が法によって守られ、また法を遵守することで自分だけでなく、何百、何千という乗客の安全を守ることを覚えてゆく。運転士という名前には単なる肩書きに終始しない。法によって守られ、はじめて働きを全うできるのであり、肩書きだけでは務めは成立しない。▼もし伝道者が肩書きだけに執着しているならば、それでは教会はたちまちに立ち行かなくなるであろう。上席を好む者は末席を与えられるのである。慢心していないか願みなくてはならない。



上:活動休止中の小高教会幼稚園。
中:須賀川教会にて新井秀牧師、信徒と共に。
下:似田兼司牧師(福島教会、右)と
田邊由紀夫委員。

▼教師委員会 福島問安報告▼

「復興」「安全」がぶつかり合う中、 福音による救いをもたらすため

8月19、21日及び9月2、4日の日程で、福島県の諸教会、幼稚園、施設等を問安した。2度の問安で、18名の教師と25の教会に問安した。教師には会えなかったが様子を見に行った教会が7教会あった。幼稚園保育園等の付属施設を7つ、その他施設を1つ、計8つの付属施設を問安した。

福島教会で大きな課題は、放射能汚染に関することである。教師や教会員、付属施設の教師や子どもたち、保護者に大きな問題としてのしかかっている。すべての人が同じ意見ではなく、意見の違いによって争いが生じ、人と人との間が分断されることもある。

一番の問題は、「復興」と「安全」が矛盾する形でぶつかり合うことである。「復興」を優先させれば、放射線のリスクを過小評価することになり、根拠のない「安全宣言」が広告され、多くの人を被爆させることになる。「安全」を強調すると、福島から避難することが何よ

りも重要な安全確保になり、人口流出に拍車をかけ、あらゆる集まりが衰退していくことになる。そして、どちらの言い分が間違っており、どちらの言い分が正しいとは簡単には言えないところに、問題の深さと大きさがある。

町の復興に欠かせないのは、何よりも人口流出を防ぐことにある。そのためには、福島に暮らしても安全であることが強調される。福島県や市町村、そして町の復興を願う地元の人たちはこの立場にある。市の担当者から保育園に「市の水道水は安全だから、子どもたちに使用するよう」との通達があったことも聞かされた。この教師は個人としては水道水を利用してはいるが、不安を感じている保護者たちに少しでも安心してもらうために、県外のペットボトルを使用していると返答した。しかしその対応が「町の復興の妨げ」として非難されるのである。

現在教団の教会で、原発事故によって2つの教会が活動を停止している。今回の問安で示されたことは、教団の豊かさである。以上のような困難を前にしても、教会や保育施設、諸施設はその歩みを前進させ、苦しむ人々に寄り添い、福音によって救いをもたらそうと懸命に歩んでいる。日本基督教団には多くの賜物を持った献身者たちがおり、福島の地でイエス様の御跡をたどる歩みをしている。東日本大震災による未曾有の試練の中で、教団の御業をそれぞれ地で行っている。その姿を見、その声を聴くことで、各地に注がれている聖霊の働きを豊かに感じることが出来た。

復興を強調する人たちの気持ちも理解できる。彼らは自分の町が衰退していくこと、目に見えぬ形で見ることが出来るのである。だからといって、放射線汚染の被害を覆い隠すことが正しいとは言えない。このジレンマが大きな重荷として人の間を引き裂き、その苦しみは軽くなるのではない日々重々なっているのが福島の現実である。

活動を開始している。今回の問安で小高伝道所と浪江伝道所に訪れることが出来た。小高伝道所は手続がなされ、浪江伝道所は役所にて手続きをした上で教会の前まで行った。

車を走らせながら、その光景の異様に胸が痛くなつた。町そのものはそこにあるのに、人がいない。農地は雑草でぼこぼこになっている。信号のみが動き、パトカーが巡回している。原発事故によってある日突然、町が停止して、教会も礼拝が出来なくなり、付属幼稚園も保育が停止したのである。多くの祈りと、奉仕によって設立され、主の御業を担っていた2つの教会と付属幼稚園の現実を前にして、言葉を失うしかなかった。

復興を強調する人たちの気持ちも理解できる。彼らは自分の町が衰退していくこと、目に見えぬ形で見ることが出来るのである。だからといって、放射線汚染の被害を覆い隠すことが正しいとは言えない。このジレンマが大きな重荷として人の間を引き裂き、その苦しみは軽くなるのではない日々重々なっているのが福島の現実である。

今回の問安で示されたことは、教団の豊かさである。以上のような困難を前にしても、教会や保育施設、諸施設はその歩みを前進させ、苦しむ人々に寄り添い、福音によって救いをもたらそうと懸命に歩んでいる。日本基督教団には多くの賜物を持った献身者たちがおり、福島の地でイエス様の御跡をたどる歩みをしている。東日本大震災による未曾有の試練の中で、教団の御業をそれぞれ地で行っている。その姿を見、その声を聴くことで、各地に注がれている聖霊の働きを豊かに感じることが出来た。

▼信仰職制委員会▲

「キリストから発する法」について学び

第38総会期の第2回信仰職制委員会が、8月23日、委員7名全員の出席により、教団会議室で行われた。委員会の開催までに届いた諮問はなかったため、前総会期の委員会から引き継いだ「教憲の学び」と「式文の扱いの検討」を取り扱うこととした。

まず前総会期最後の委員会における深谷松男委員の発題「日本基督教団教憲に「啓示教会法(キリストから発する法・深谷委員長名)」という概念をめぐって」の理解を深めた。

また、各教会の現実においては、宗教法人法に基づく規則と教会法としての規則の区別が十分に整理されておらず、責任役員会と役員会の関係が混乱している事例もあるとの指摘を受けて、必要を確認した。

さらに、会議制をめぐる教団と教区、各教会の関係の混乱、宗教法人法における「包括団体」という概念が教会法にも影響を及ぼす誤り、「教会的権能」の問題等をめぐって協議した。式文の扱いについては、信仰職制委員会の責任において、「試用版Ⅰ・Ⅱ」が出て、教会法の理解を深めていく必要を確認した。

また、各教会での「試用版」の用いられ方や評価を踏まえつつ式文をどのように改訂していけばよいか、次回の委員会においてさらに検討することとした。

次回の委員会は、来年の1月20、21日(ただし、年内に諮問が出なければ、20日のみ)に行う予定。(東野尚志報)

第16回部落解放青年ゼミナール報告

部落解放青年ゼミナールは、教会に連なる青年たちが部落差別問題と出合い、考え、解放に向けて共に行動することを目的とし、毎年夏に行われていました。今年は8月21日から24日にかけて、京都教区錦林教会を会場に開かれました。

参加者は約26名と、例年に比べ少ない中での開催でしたが、その分参加者ひとりひとりの思いを聴くことが十分に持てました。

今回のテーマは「差別で現場は怒っているんだ!」です。部落差別について学び、現代の差別に怒りながら解放をめざし、行動する人々と出会う機会を考えました。

また、実行委員が担当し、部落差別入門講座や狭山事件学習会を行いました。そして、聖書を読む会では、摂津富田教会の牧師であり、釜ヶ崎医療連絡会代表を務める大谷隆夫さんに、釜ヶ崎の抱える問題医療、仕事、住居等から、ご自身が感じる「怒り」を聴きました。

「怒っている人に出会い、変えられ、自分も怒る」とを目的とした今回の青年ゼミ。私は「怒り」を「熱い思い」と言い換えました。「熱い思い」を持つ人に出会い、変えられ、自分も熱い思いになる。人が決心し、立ち上がるときの原動力は「熱い思い」です。また、その「熱い思い」を共有できる仲間が存在は大きな励みとなります。「熱い思い」を抱き、仲間と共に歩み出す。復活したイエスにエマオで出会った弟子たちの姿と重なりました。

青年ゼミをいつも憶え、支え、「熱い思い」を届けて下さっていた皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。(片岡正義報)

にされることを祈るのである。その祈りに押し出され、私たちは献げものを感じ、祈りと献金によって、私たちが被災地の主の御業につなげることが出来るのである。祈りと献金による連帯感として、問安報告とした。

された、私たちの奉仕の業であること強調し、問安報告とした。

された、私たちの奉仕の業であること強調し、問安報告とした。

された、私たちの奉仕の業であること強調し、問安報告とした。

された、私たちの奉仕の業であること強調し、問安報告とした。

された、私たちの奉仕の業であること強調し、問安報告とした。

東京教区東日本大震災募金委員会

宮城・福島で被災地・教会と交流

東京教区東日本大震災募金委員会の委員7名が、9月4・5両日、宮城・福島県の被災地、被災教会を訪れた。東京教区は、中越地震以来、能登半島地震、東日本大震災で特設委員会を



台湾からのボランティアを交えての集会。石巻山城町教会。

第1日目は、地域別に見て最も犠牲者の多かった石巻市（行方不明者含め3946人／2013.7現在）を訪れ、石巻エマオの飯野久美子教団派遣専従者の案内で見て回った。

「がんばろう石巻」と書かれた門脇地区の献花台に立ち寄ると、掲示された写真で、オフィス、店舗の立ち並ぶ賑やかな通りだったことがわかるが、瓦礫が撤去され荒れ地となった今では、かつての殷賑ぶりは、想像し難い。献花台奥には、津浪到達標があり、6.9メートルと記されていた。

信仰職制委員会

秩序ある健やかな教会として建つため

小堀 康彦

信仰職制委員会の職務は、①本教団の信仰告白に関する事項、②教憲および教規の解釈に関する事項、③礼拝・礼典および諸儀式に関する事項、④信仰および職制ならびに教會的機能に関する事項をつかさどる（教規44条）ことにあります。

委員会コラム

信仰および職制に関して、この案件をどのように扱うべきかわからない場合、当委員会に諮問が寄せられます。当委員会は信仰告白ならびに教憲・教規に照らし、答申を出すというあり方でそれに応えていきます。

消息

の30人ほどで集会が始まりました。関川伝道師は、ヨブ記によるメッセージの中で、「教会員35人のうち、半数が何らかの罹災をし、1人が家族を失った。当初は、津波への怒り、嘆きだった

のとき、日本の方々に助けられた。神に導かれて、日本で奉仕出来て感謝している」「ワークして、ここまで水が来たと聞いて、想像出来なかった。貴重な経験が出来たことを感謝している」と殆どの方が涙を浮かべながら、感想を述べた。

減したが、34人の被災者が居住している。エマオの活動の一つ、「お茶っこクラブ」はその一隅にあり、日曜を除く毎朝8時半から9時半まで、体操の後、お茶を飲みながら話し合う。

186人の犠牲者が出て、海岸沿いに慰霊碑も出来上がった。「仮設は、あと1年半と聞いている。その先、どうしたらよいか」とお年寄りのつぶやきがあった。

された。似田兼司牧師は、会堂が更地となり、無牧となった教会に2011年12月着任した。大阪で隠退生活を送っていたが、生地、すぐ近く、礼拝に通い受洗した教会の状況を知って、現場復帰を名乗り出たのだ

は、8月から除染作業が始まり、礼拝は、牧師館のある伝道館で行われており、近く除染作業が始まる。今年4月の教会総会で、会堂再建が話し合われ、旧会堂に趣きの似た設計試案が示された。似田牧師は、「年内に基本設計を終え、来年春には工事開始、クリスマスに献堂式をしたい」と祈るように語った。

事務局報

補教師登録
岩住 賢、坂口聖子
(2013.6.29受允)

教師異動
神戸北 辞担(出口尚弘)
琴平 辞主(木村一雄)
名古屋新生辞主(寺田仁計)

就主(安達正樹)
就担(寺田仁計)
就主(石川敏一)

辞主(川上清樹)
辞主(近藤勝彦)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

辞主(徳舛和祐)
辞主(上原芳子)
辞主(片岡広明)

下松愛隣 辞主(吉田光孝)
聖学院大学大学院
辞(教)古屋安雄

辞(担)岩住 賢
横濱指路 辞(担)坂口聖子
戸塚 辞(担)坂口聖子

東京信愛辞担(鈴木由加子)
有田 辞(代)末瀬昌和
宇部 辞(代)老田 信

辞(主)徳舛和祐
辞(代)小畑太作
辞(主)徳舛和祐

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

辞(主)徳舛和祐
辞(代)上原芳子
辞(主)片岡広明

就(主)村本新日
瀬高 就(兼主)村本新日
野村 就(兼主)佐藤浩之

教師隠退
坂上三男、吉田光孝、
古屋安雄

信徒伝道者異動
深渡 歩→東 歩
伝道所開設

伝道所開設
相屋 福岡県糟屋郡粕屋町
大字内橋字一本木22

守谷 守谷市ひがし野1-15-2
国際愛 さいたま市北区本郷町205 むさしパン

高知中央
広島流川
広島市中区上幟町8-30

教会通信先廃止
高知中央

高知中央

高知中央

高知中央

高知中央

高知中央

高知中央

高知中央

高知中央

ビル2階
伝道所廃止
成東、阿佐谷恵々
教会種別変更

久留米樹原
第一種から第二種へ
教会所在地変更

北ノ沢18019
伝道所通信先変更
浪岡 弘前市袋町1-1

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

浪岡 弘前市袋町1-1
教会所在地名変更

総幹事 長崎哲夫

西中国教区靖国神社問題特別委員長 鎌野 真

西中国教区総会議長 柴田もゆる

「教団新報」4779・80号1面掲載のメッセージについて要望」

西中国教区靖国神社問題特別委員長 鎌野 真

西中国教区総会議長 柴田もゆる

西中国教区靖国神社問題特別委員長 鎌野 真

西中国教区総会議長 柴田もゆる

西中国教区靖国神社問題特別委員長 鎌野 真



「牧会」をテーマとして研修を行う

夏期研修会

伝道推進室主催

8月12日から14日にかけて「第4回夏期研修会（合同開催第7回Cコースの会）」が東京神学大学を会場にして開催された。この研修会は、日本伝道会から伝道推進室に引き継がれたもので、教規第3条6項による者（いわゆるCコースならびにその受験者）と准コースで教師を目指す者と教師となった者の研修と交流を出発点としていたが、一時頓挫し、再開に際して、教師育成をも目的に加えて、「夏期研修会」と称して開催を続けて来たものである。

また、これまでのテーマは、「説教」「教会」「葬儀」に焦点を当てて、教会の現場で新任教師が悩みを抱える課題を取り扱ってきた。今年も、「伝道者、牧会者として立つために」と題して「牧会」をテーマに研修会が行われた。講演に当たった講師、講演題は以下のとおりである。石橋秀雄（教団総会議長）「贖罪信仰に立つ伝道者」、小泉健（東京神学大学准教授）「牧会とは何か」、高橋力（東北教区巡回教師）「永遠のお取り仕切り」、朴憲郁（東京神学大学教授）「牧会とアイデンティティ」、深谷松男（金沢大学名誉教授・法学者）「教会法と世俗法」「法的解決と牧会的解決」、小林眞（遠州教会牧師）「忘れられない役員たち」であった。

その他に朝と夜に礼拝を守り、チャプレンとして小島誠志（久万教会牧師）、大隅啓三（隠退教師）の両教師に奮闘してもらった。このことは、リトリートの側面をこの研修会の目的の一つとしているので大切にされている。暑さと雷雨の中での開催であったが、参加者は19名で、今回は、Cコース受験者が3名、Cコース出身者が7名、そして准允後5年までの者が8名であった（聴講者が1名加わった）。

「牧会とは何か」を講演した小泉准教授は、「牧会とは、神の言葉を伝え、神の牧会へと目を開かせることである」と牧会の中心点を示した。また、深谷氏の講演の中では、教会法の独自性としてキリストの支配を挙げ、御言葉を正しく聞き、御言葉によって教会は統治され、キリストから命じられた責務を果たし、神の栄光に仕えることを学んだ。更に、朴教授の講演では、「アイデンティティ」を私とは何かという側面から捉え、神の栄光を現わす器としての自己形成について学んだ。これらのことを踏まえて、研修会の後半では、「ケース・スタディ」という時間を設け、参加者が抱えている牧会の課題を出し合ってもらった。礼拝の中で子供が騒ぐことについてどう対処したら良いか、役員会形成についての諸課題、また、教会に無心に来る人たちにに対する対応についてなど、多様な課題が出された。それを学んだことを土台として、牧会上の具体的な道筋を見出す学びの時間であったが、残念ながら、十分な方向性を見つけるまでには至らなかった。今後の課題として浮かび上がったことの一つは、Cコース受験者の「教会実習（神学校での夏期伝道実習のようなもの）」の場がないことで、このような場を設けてほしいとの声に答えていきたいと考えている。

（宮本義弘報）

教師検定試験公告

2014年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

一、受験要綱の申し込み

受験要綱と教団指定の願書用紙は160円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師（A、B、Cコースの別も）受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。

なお、正教師受験志願者は「教師検定規則第12条②」によるものに限ります。

二、受験願書の提出

受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。

①教区締切 2013年11月11日（月）

（教区により締切が早まる場合がありますので、教区事務所に確認してください）

②教団締切 2013年12月11日（水）

（各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です）

*受験料は正教師1万3千円、補教師1万円

三、補教師について

①「説教」「釈義」の課題テキスト

旧約 詩編 130編

新約 コリントの信徒への手紙2・4章7〜15節

②コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱で確認ください。

③補教師（CⅢコース）の牧会学の課題

「牧会とは何か」について論述してください。

④Aコースについては、教師検定規則第4条第3号にもとづく試験が実施されます。

同対象者は、神学校を通して説明をうけ、それにもとづく手続をおこなってください。

四、正教師について

受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。

五、提出物（説教、釈義、牧会学等）締切について

当委員会への提出締切日は、2013年12月16日（月）必着です。

六、学科試験と面接試験について

学科試験は2014年2月25日（火）、面接試験は2月26日（水）、2月27日（木）に東京・日本キリスト教会館ビル内（教団会議室）にて実施します。詳細は受験志願者に通知いたします。不明な点は直接、当委員会へお問い合わせください。

2013年10月12日

日本基督教団教師検定委員会

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546

電話（03）3202-0546



伊藤 倭さん

わが世にあらん限りは



ろうけつ作家、福岡南教会員。

中国を経由してインドから伝わった（ろうけつ）（臆縮。またはろけつ）は日本で最も古い染法といわれる。正倉院の宝庫にもこの手法で染められた織物が収められているという。

伊藤さんがろうけつと出会ったのは高校生の頃。「家から一番近かった高校に染物料があり、絵を描くような感覚でできるとに興味を抱いた。

小さい頃から絵を描くのが大好きだった。病弱だったため自然と家にいることが多かったからである。

教会との出会いは4歳から5歳の頃、とにかく終戦直後のことと本人は記憶している。母に連れられ近くに建てられた教会へ

と足を運んだ。カマボコ兵舎を利用した会堂が今も強く印象に残る。

病気で学校は休んでも教会の学校は休まなかった。学年ごとに歌う讃美歌が決まっていたのよ」と少し悔しそうに思い出すがとにかく毎週楽しかった。バプテスマを受けたのは15歳の時。牧師や母に勧められたのではない。むしろ母は信仰のことに関して何も言わなかった。

本人に聞くと「一日生きるのが精一杯だったから。腹膜炎にかかり死線をさまようなど、病気のことが常に心にあったのだという。家族の誰も彼女が20歳まで生きられるとは思っていなかったのだと思う。

最後に50年以上も共に歩んだろうけつのことを聞いてみた。〈フナ釣り〉によく例えられるらしい。「ここに戻ることかしらね」と話す今、礼拝に足繁く通っている。本当は神がこの人の上に何かを描いてくださったのだと思う。

シリア難民支援救援募金のお願い

主の聖名を賛美いたします。

2011年1月より続いているシリア内戦により、周辺の国々への難民は、国連の発表によりますと、およそ200万人とも伝えられています。

つきましては、社会委員会では、日本基督教団がメンバーチャーチであるEMS（旧南西ドイツ宣教会）のシリア難民支援献金依頼により、レバノンのシュネラースクールにいるシリア難民の子供たちのための救援募金をいたします。ご協力をお願いいたします。

2013年9月19日

日本基督教団社会委員長 金土達雄

◎募金期間 2013年12月末

◎目標額 特に定めず

◎送金先 加入者名 日本基督教団社会委員会

◎郵便振替 00150-2-593699

（通信欄に「シリア難民支援救援募金」とお書きください。）

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

日本基督教団社会委員会（TEL 03-3202-0544）

伝道推進室より DVD好評発売中！

◆伝道推進室発足記念大会（DVD2枚組）1セット1,000円

◆緊急研修会「幼保一体化に向けての子ども子育て新システム」（DVD3枚組）1セット2,000円

◆申込・問い合わせ 大三島義孝（伝道推進室担当幹事、FAX 03-3202-0544）まで。＊送料80円